

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立塚本小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市小学校学力経年調査」の児童アンケート「学校のきまりを守っていますか」の項目に肯定的な回答をする児童の割合が、令和6年は91.5%、令和7年は92.4%と、高い水準を保っており、子どもたちが落ち着いて前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。校内アンケートでも、学校での学習は楽しく充実していると感じている児童が多いことがわかる。

学力に関しては、令和7年度「全国学力・学習状況調査」では、国語の平均正答率が64%で、大阪市を1ポイント、全国を2.8ポイント下回った。算数の平均正答率は54%で、大阪市・全国ともに、4ポイント下回り、課題となった。また、「大阪市小学校学力経年調査」の結果から、学年が上がるにしたがって、ボリュームゾーンが学力上位層から学力下位層に移っていく傾向にあることが分かった。算数科の研究を核に、問題文の内容を理解し、根拠や理由を明確にしながら論理的に考え、答えを導き出す力を育ていきたい。また、デジタル教材や一人一台端末等の活用を通して、子どもたちの意欲の向上や基礎・基本の定着を図っていく。

そして、業務の組織化を進めていくとともに、教職員の働き方を見直して、子どもに関わる時間、教材研究や授業準備の時間を確保し、生み出された時間的余裕を教育活動の質の向上に使いたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.5ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年間を通じ、夏季休暇全日に加え、年休を5日以上取得した教員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント減少させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.1 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。
- ・年間を通じ、夏季休暇全日に加え、年休を5日以上取得した教員の割合を 90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立塚本小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(1) 【安心・安全な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 (R7年度 76.5%) ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科、領域で話し合いやグループ活動で相互理解、共感を広げる心を引き出し、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7年度 81%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校の児童に対して、担任だけで対応にあたるのではなく、学校全体で情報共有し、外部の関係機関とも連携しながら対応にあたる。</p> <p>指標</p> <p>毎週の学年会や月1回の職員連絡会・生活指導部会において、子どもの状況を共有し、課題や対応の共通理解を図る。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>人権教育の年間計画をもとに、自らがかけがえのない大切な存在であると実感できる人権教育を推進する。</p> <p>指標</p> <p>学校全体を通して、年間18回以上の人権教育の取り組みを行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>障がいに対する相互理解を図るなど、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。</p> <p>指標</p> <p>特別支援学級在籍児童による「なかよしタイム」を年間10回以上実施する。</p>	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(2) 【未来を切り開く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> 4年 R7年度(3年時)0.98 5年 R7年度(4年時)0.99 6年 R7年度(5年時)0.91 ・小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント減少させる。 <ul style="list-style-type: none"> 4年 R7年度(3年時)4割未満 7.3% 5年 R7年度(4年時)4割未満 5% 6年 R7年度(5年時)4割未満 16.5% ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.1 ポイント向上させる。 (R7年度 男子 0.95 女子 0.99) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的、対話的で深い学び」の視点で授業づくりをすすめる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>授業研修を伴う校内研修の中で、主体的、対話的で深い学びにつながる指導を5回以上行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の授業力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>算数科『主体的に考え、話し合うことができる算数科指導の在り方』の研究授業を年3回行う。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>体力づくりカードの作成や、大なわ週間・運動能力UP週間などの取り組みを年2回以上実施したり、体育の授業の最初5分に強化する運動の時間を設けたり、遊びや運動を通じた体力づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 (R7年度 71.5%)</p>	

大阪市立塚本小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(3) 【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。 (R7年度 83.8%) ・年間を通じ、夏季休暇全日に加え、年休を5日以上取得した教員の割合を 90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>インターネットや生成 AI、SNS 等の日常的な活用を進めるとともに、情報モラル教育の年間計画をもとに、情報を扱う際に気をつける点についても、発達段階に応じて指導していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用するときに、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>業務の組織化を図ること及びトラブル対応の時間を減らすことで、一人一人の業務計画を円滑に進むようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間を通じ、夏季休暇全日に加え、年休を5日以上取得した教員の割合を 90%以上にする。</p>	